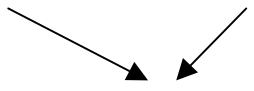


第9回 A-TS 17-03 安全と標準・認証研究会 議事録

1. 日時 2004年10月1日(金) 09.30 ~ 12.30
2. 場所 日本機械学会会議室(東京・信濃町 煉瓦館5階)
3. 出席者(順不同、敬称略)
杉本委員長(北九州市立大学)、斎藤(産業安全研究所)、田中(安全技術応用研究会)、木村(長岡技術科学大学)、加部(シュメアザール)、小林(シュメアザール)、篠原(東京工科大学)、中田(オープンシステム研究所)、柘平(テュフラインランド)、小野(産業技術研究所)、杉原(パナソニックファクトリーソリューションズ)、松田(製品安全協会)、梶原(ビューローベリタス)
4. 配布資料: なし
5. 議事
 - 5.1 愛知万博におけるロボットの動向について 杉本委員長
 - 9月27日、機械振興会館において、ロボットの安全設計に関する考え方について、3グループから発表があった。
 - チャイルドケアロボット(日本電気)
 - 接客ロボット(三菱重工業)
 - インテリジェント車椅子(アイシン精機・富士通)
 - 次回の発表会(5グループ) 11月5日予定
 - 5.2 講演「製品安全への取組みについて」 杉原 健治氏(パナソニック ファクトリーソリューションズ(株))
 - パナソニック ファクトリーソリューションズ(株)とは、旧・松下電器産業 FA 社と旧・九州松下電器 FA 事業部が統合して、2002年設立。回路形成技術を核として、回路形成関連設備などの設計・製造、モノづくりプロセスをサポートしている。
 - 安全に対するアプローチとして、第1者(メーカー)と第2者(ユーザー)との間に立って、第3者認証機関として検査・認証業務を行っている。
 - 技術法規の責任者が、製造者の説明責任を負っている。
 - 安全な製造とは、PL法で解釈される欠陥のないこと。
 - 安全の論理構造としては、

始動: 社長、開発 安全: マイスター、アセッサー



```

graph TD
    A[始動: 社長、開発] --> C[起動・販売・商品]
    B[安全: マイスター、アセッサー] --> C
              
```

起動・販売・商品
 - リスクアセッサー: 現在、20名
技術法規責任者/専門職として考えている。設計技術者(6年以上の経験者)が担当している。
技術のわかる人でないとダメ。

- 生産性と関係においては、システム上(安全チェックの見落とし)ないように構築している。
- ダブルスタンダードは、やめよう。
- 中小企業相手に、どのように安全を普及させるか？
安全基準とのチェック型から、安全コンセプト・チェック型へ移行、すなわちリスクアセスメント/リスクアセッサの養成が大事。
- 福祉機器は、直接、使用者(患者)に持っていったってダメ。まず、介護者に説明すべき。

5.3 その他

1) 次回(第10回)研究会開催予定

日時 2004年11月12日(金) 09:30~12:00

場所 日本機械学会会議室(東京・信濃町 煉瓦館5階)

議題 - 本(これまでの活動)の出版について

- 話題提供 杉本委員長より(予定)

以上